

世界文化遺産(紀伊山地の霊場と参詣道)

延喜式内大社

# 吉野水分神社 子守宮



## 神社の宝物

神 輿

黒漆金銅装  
神輿 二基  
社殿と同時代  
の物にして

八角八棟造で  
あります

「奈良県指定有形文化財」

湯 釜 往昔御湯と申し産湯禊祓にせしもの  
なり

総高(二尺九寸)  
径(一尺七寸)

柴 燈 大小二基あり

大(四尺四寸余)小(三尺六寸余)  
湯釜、柴燈は皆鉄にて造らる

釣 燈 籠 八角にして金銅製一対あり

※非公開

以上全部慶長九年豊臣秀頼卿の  
寄進によるものであります。

三十六歌仙 此額は道光親王の御筆にして画は  
狩野永徳の画かれたものです。



神輿

## 御祭神

御本殿

御正殿(吉野水分神社) 天水分大神  
右殿(子守宮) 玉依姫命 天萬栲幡千幡姫命

左殿(子守若宮) 御子神 高皇産靈神  
少彦名神

幣 殿 子守大明神

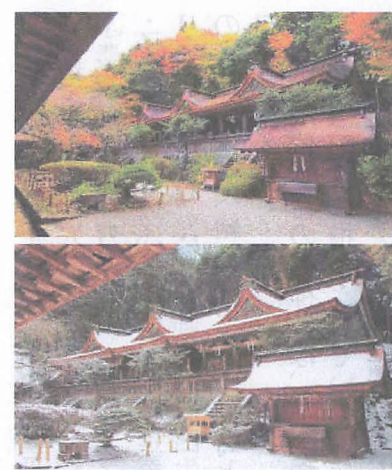
境内社

大神社(八幡宮) 大峯鎮守三十八所神(八幡神)

柴神社 子どもの皮膚病治癒の神様

住吉社(祓戸社) 住吉四神

祓 所 金精明神(金山比古神)



子守明神は子  
守地藏菩薩の  
垂迹(子守三所  
権現)で、当社  
は現在も大峯  
奥駈修行・修驗  
道の行場(七十  
二磨)となって  
います。

## 神さぶる磐根こごしきみ吉野の

### 水分山を見れば悲しも (万葉集より)

本 殿 三殿一棟造 中央春日造

左右流造 桧皮葺

幣 殿 単層切妻造 柿葺

拝 殿 入母屋造 柿葺

楼門及廻廊 重層入母屋造 枋葺

以上 桃山時代代表建築(重要文化財)

幣 殿



本 殿

楼門および廻廊



奈良県吉野郡吉野町吉野山一六一二

## 吉野水分神社 子守宮

よしののみくまりじんじや こもりのみや  
電話 〇七四六(三二)三〇一二

吉野水分神社は、二〇〇四年(平成十六年)ユネスコの世界文化遺産(紀伊山地の霊場と参詣道)の構成遺産の一部として登録されました。

奈良県吉野郡吉野町吉野山に鎮座の当神社は、延喜式神名帳に、吉野水分神社大月次・新嘗とある旧社にして、大和四処水分の第一に数えられ、俗に子守明神とも申されます。御主神は天之水分大神(アメノミクマリ)でありまして、水戸の神の御子神にて、続日本紀文武天皇二(六九八)年夏四月戊午奉馬乎吉野水分神祈雨也とあり、みくまりは水配りにて、山谷より流れ出づる水を、程よく田畑に分配して、灌漑の便を図り給う神であります。もと灌漑の便を図りて稼しよくの事を掌理し給ふ神でありますが故に、古来風雨順ならず、早天などうち続きて稼しよくを損ふが



御田植祭

如きことある時にはいつも朝廷より、馬及び御幣物を奉獻して、この神に祈り給ふを例とせられしのみならず、中古神祇官に於て行はせられし祈年祭及び六月、十二月の月次祭には、案上官幣に預る大社である事は、延喜式の祝詞に徴しても明白の事実であります。

されば当社にては、古来大祭として盛大なる御田植祭を毎年四月三日に斎行し、遠近の氏子崇敬者御恩頼を蒙り、又神恩に報賽するを恒例となつています。

また当神社の事を、古くより子守宮といひ伝へ神名帳考証などにも吉野水分神社大月次、新嘗祭水神今云子守明神とありて、世人はこの神社を出生養育即ち幼児守護の神として崇敬し、既に豊臣秀吉も、この神に祈願して秀頼を設け、その縁によりて慶長年中建部内匠頭光重を奉行とし建築再建に当らしめたるものにて、現に建物全部が重要文化財に編入せられ居るは、其の当時再建のままの建物であり、それが桃山時代の豪華をもつてするので華麗であり、精巧を極めています。国学者の泰斗として有名な本居宣長翁も、翁の父母が、この神に祈請をこめし靈験により生れたという事が、翁の三度迄も当神社に詣で、報賽せられ、その祈詠み残されし和歌によりても明白であります。

### 吉野山花は見ぬとも水分の

神のみまへをおうがむがよき

### 水分の神のちはひのなかりせば

これのあが身は生れこめやも

### 父母の昔思へば袖ぬれぬ

水分山に雨はふらねど

水分神を幼児の守護神といふこと、如何にも不審らしく思はれますが、それは当神社の御祭神は、御主神の外に、尚六柱ありまして御正殿の右方の御殿には天萬栲幡千幡姫命(アメノヨロヅタクハタチハタヒメ)、玉依姫命(タマヨリヒメ)、天津彦火瓊々杵命(アマツヒコホノニギ)を奉斎し、左方の御殿には御子神(ミコ)、高皇産靈神(タカミムスビ)、少名彦名神(スクナヒコナ)を奉斎しあれば、これにてそのいわれは知れます。

まず、右殿天萬栲幡千幡姫命と、瓊々杵命とは親子にて、左殿の三柱も、皆親子神であります。殊に天萬栲幡千幡姫命は、高皇産靈神の御子神であります。天照大神の御子天忍穗耳尊に配し給ひて、瓊々杵命を生みまし、保育そのよろしきを得て、聡明英達、この国土に降臨され、皇祚の基を建て給ひ、又玉依姫命は、御姉豊玉姫命にかわりて鶺鴒草不合葺尊を御保育し、後に不合葺尊に配し給ひして、神武天皇を生み奉り、その保育又よろしきを得て神武天皇が終にこの大和の国に於て日本国の紀元を創立されし、いとも尊く、いとも目出度瑞祥の存するを以て、この二姫命を幼児守護の神として子守明神とたゞへ庶人の尊崇するに至りし事、極めて道理ある事であります。

以上略述いたしましたとおり、水分神社といふは、御正殿の天水分大神によりて唱へ奉る称号にて、主

として山々谷々より流れ出づる荒水を甘水になして、程よく田畑に分配して、稼しよくを成熟せしめ給ふ農業御守護の方よりたゞへ奉り、子守明神(子守宮・子守若宮)といふは、左右両殿に奉斎せる神々によりてたゞへ奉れるにて、御祭神に出生保育、幼児守護の大巧徳を備へ給へるにより、何時となく唱へ奉る称号であります。

祭神の玉依姫命の御神像は、日本第一の美女神像にて現在には国宝に指定されています。およそ等身大彩色十二単衣をまとい、端麗豊頬でお目の下にあるかなきかの微笑をふくみ慈愛の柔かさは、面長下ぶくれの高貴さと相映えて平安王朝時代の貴女(中宮彰子)の気品を備え、えくぼまで表出されていて愛児に呼びかけている生きた女神といった感じがあつて御子守の神にふさわしく緑豊けき頭髪を中央から左右にわけて両肩から背後に垂れ衣紋は肩先から膝の上へ全体が正三角形という美学の原則そのままであります。尚、天萬栲幡千幡姫命の御神像も重要文化財に指定されています。

※ただし御神像は御神体故、

公開は致しておりません。

ご了承ください。



楼門